



障害児・者を守る！ コロナ感染対応

石田 裕一(みらい)



問／新型コロナウイルスに感染の疑いがある障害児・者の相談支援体制はどうか。

答／身近な相談支援専門員や障害者福祉サービス事業所で相談に応じています。感染が疑われる場合は保健所内の帰国者・接触者相談センターへ案内している。



マスクが困難な障害児・者を理解してもらうことも重要

問／障害児・者の家族が感染した際の支援は。

答／一時的な短期入所や医療機関への入院及び障害福祉サービス利用を含め、感染時の備えを相談できるよう関係機関と連絡調整を図る。

問／「上越市自立支援協議会」に「感染対策専門部会」を早急に設置し、障害児や障害者及びその家族の支援体制を整える考えはないか。

答／令和2年7月に協議会を開催し、専門部会の設置を含め、意見への対応を検討していく。

体育・スポーツ施設整備等についての要望は

問／上越市スポーツ協会が毎年要望を提出している。現在、野球場新設の調査は進んでいるが、他の施設の要望はどう検討を進めるのか。

答／令和元年度はソフトボール場、サッカー場の屋内テニスコート、野球場、クライミング場の要望があり、次期総合計画や財政計画等の策定を見据え検討し、方向性を示す。



複合型災害時の避難所 トイレは大丈夫か？

高山 ゆう子(みらい)



問／例年これからの時期は豪雨や台風災害が懸念され、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点で聞きたい。

災害時の避難所における不特定多数のトイレの使用は公衆衛生面で感染力が高く危険であるが、多数の避難者の使用が想定される市内小中学校のトイレの改修状況はどうか。また、未改修の学校のトイレは和式で湿式床、すのこ敷、非自動水栓等、衛生面の懸念がある。多目的トイレ設置も含め、今後の改修計画を聞きたい。

答／市では、上越市立学校等施設整備計画に基づき施設の年次的な改修整備を進めている。現在のトイレの改修状況は、校舎棟は小学校50校のうち30校(60%)、中学校は22校のうち12校(55%)、体育館棟は小学校25校(50%)、中学校は10校(45%)で改修済みである。令和2年度は、校舎棟で針小、大湊小、南川小及び板倉中の4校、体育館棟は稲田小、針小、南川小及び城東中の4校が改修予定である。今後

も計画的に改修整備を進め、一層市民の安全確保と快適な施設利用の促進に努めていきたい。



ふるさとに誇りと愛着 を育む教育を！

高橋 浩輔(みらい)



問／少子化や人口減少が進む中、将来の上越市を担う人材の育成や確保が喫緊かつ重要な課題となっている。そのためには子どもたちの心の中に、ふるさとに対する「誇り」と「愛着」を育むことが重要と考えるがどうか。また、これまでの取組と今後の方針を聞きたい。

答／郷土の誇りや愛着を育むことは重要であり、第6次総合計画で取組を進めている。「夢・志チャレンジスクール事業」「ふるさとの偉人読み物資料集の活用」「謙信KIDSプロジェクト事業」等、学校教育と社会教育の両面から取り組んでいる。今後も引き続き推進していく。

問／上杉謙信公の「義の心」の教えに焦点を当て、全市的な取組はできないか。

答／義の心の教えは大人でも解釈が難しい。「上越市教育の日合い言葉 義の心をつなげよう」にその精神をいかし、子どもたちに伝えたい。

「地域の宝」認定制度の活用を！

問／本制度に期待する効果とまちづくりや人づくりにどうつなげ、いかしていくのか聞きたい。

答／地域の方々が大切にしてきた「地域の宝」はもちろん、それを保存・活用する取組にも光を当て、関係する人々の更なる熱意や活発な活動につなげたい。また、地域の子どもたちの参加による誇りや愛着の醸成も期待している。